

# 最前線のウクライナ人は米追加支援が大惨事にならないかと恐れている

世界の大部分は米国の新たな援助を祝っているが、前線地域の人々のなかには、戦争が長引き、利益をえるのは悪者だけだと考えている人がいる。

アンナ・コンクリング

デイリー・ビースト 2024 年 4 月 25 日

<https://www.thedailybeast.com/frontline-ukrainians-fear-new-aid-from-us-will-be-a-disaster>

【ハリコフ発】連邦議会での長い内紛の後、バイデン米大統領はついにウクライナへの 610 億ドルという巨額の追加軍事援助法に署名することができた。共和党が多数を占める下院での法案の遅れによって、ウクライナの防衛能力に影響を与えたと広く非難された。

先週の法案可決後、一部の下院議員はウクライナ国旗を振り、これでウクライナがまもなく新しい武器を受け取ることができると歓声を上げた。署名したバイデン大統領は、武器の輸出を直ちに開始すると約束し、「世界平和にとって良い日」と歓迎した。

だが戦争の最前線に近いこの場所での反応は、非常に異なっているように感じられる。ワシントン DC の出来事を告げられると、オレグ氏はため息をつき、「本当ですか。じゃあ戦争はこれからも続きますね」といった。

オレグ氏は、ハリコフ市サルティフカの出身。ここもロシアのミサイル攻撃が繰り返され、住宅や企業、インフラの大部分が被害を受けている。彼は、自分

は親ロシアではなく、ロシアの占領下での生活は望んでいないという。彼は戦争の最悪の被害を目の当たりにしてきた。最前線で戦っている友人は数え切れない。中には重傷を負ったり殺されたりした人もいる。自分も家を引っ越さなければならなかった。なんとかして戦争が終わってほしいと思うが、ロシア兵がハリコフを占領し、自分の友人が大勢ウクライナのために戦っていることがわかったら、自分は殺されるかもしれないと語った。それでも彼は、610億ドルの支援がウクライナの戦争勝利に役立つとは考えていない。

「私や私の友人たちの考えでは、この資金はウクライナの助けにはならない」と彼は言った。「この国には腐敗が多すぎる」

「追加資金は戦争を長引かせるだけだし、民間人も軍も疲れている。人々は平和と交渉を望んでいる。紛争の継続ではない」と彼は付け加えた。

ハリコフはここ数カ月、空襲のサイレンが絶え間なく鳴り響き、毎日のように新たな攻撃が仕掛けられるなど、ますます危険になってきている。4月29日には、ロシアの攻撃でハリコフのテレビ塔の一部が破壊され、放送が中断された。その日のうちに街は再び攻撃された。キエフ・インディペンデント紙は最近、ロシアの新たな反攻はハリコフにむけられる可能性があると報じている。またガーディアン紙は、10年前にロシアに破壊されたシリアの都市を引き合いに出して、この街が第二のアレッポになる可能性があると予測した。

ロシア軍がチャシフ・ヤールに注意を向ける中、現金と直接的な軍事貢献を含む新たな支援は、ロシア軍の進出をかわすのに役立つことは間違いない。兵士たちは、ロシアが旧ソ連の第二次世界大戦記念日である5月9日までにドンバス地方の都市を制圧することを望んでいると語った。

ウクライナの大部分で、安堵のため息が感じられ、戦闘から遠く離れた多くの人々が、切実に必要としていた支援をようやく受けられたと感じている。しかし、ロシア国境から19マイルのハリコフでは、米国による援助再開に怒っている住民もいる。

ハリコフのカフェレストランで働くオレナさんは、ロシア軍の次の攻勢で戦闘が再開したら、故郷を離れてドイツにいる息子のところに行くことを考えていると語った。彼女はウクライナを愛しており、戦争に勝つことを望んでいるが、ロシアがまもなく国全体を支配するかもしれないと思っていると述べた。「この武器があれば、戦争に勝てるっていうの」。彼女は嘲笑した。「おおいに疑問だね」

彼女は、新たな支援がきても、ウクライナが現在直面している戦いの規模にくらべたらどうしようもないと思っている。

「武器がなければ大変なことになるでしょう」「でも、ほとんどの場合、それはバケツの中の一滴よ」と彼女は言った。

取材したもう1人、ハリコフの建設作業員ウラジミールさん(45歳)は、610億ドルは不正を働く人々に利益をもたらすだけだと語った。「政治家のポケットに入るだけだよ。彼らは家やアパートを買っている。友達は戦争にいつているのに」といった。

ウラジミールさんと妻のジュリアさん(39)は、ハリコフ郊外の小さな村で2人の子供と暮らしている。一家はほぼ毎日爆発音を聞き、12歳の息子はいつも戦争に怯えており、ロシアのロケット弾が自宅を通り過ぎるとパニック発作を起こすことが多い。先週、撃墜されたミサイルの破片が自宅の金属フェンスを貫通し、2年前にロケット弾が着弾した裏庭にはクレーターサイズの穴が開いている。一家は、ハリコフでの戦争の最悪の局面を目の当たりにしており、生き延びられるかどうかわからないストレスの中で常に生活しなければならないことにうんざりしているという。

戦争が始まったとき、ウラジミールさんは、ロシアの攻撃を受けたハリコフの大型ボイラー工場の再建を支援するために雇われた。作業員は修理費用を賄うためにドイツから資金を受け取っていたが、その資金の大部分は「キエフからハリコフに向かう途中で消えてしまった」と主張した。彼ら(ハリコフ市)はクレーンのオペレーターに給料を払わず、スタッフにも一部しか支払われなかつ

た。他の修理にたくさんかかったとして帳消しにされたという。彼は、仕事の対価として正当な報酬を受け取っていないと付け加えた。

ウラジミールさんは、ウクライナ政府が贅沢品を買うためにお金を使い、手足を失った兵士や高齢者、すべてを失った人など、お金を必要とする人々には渡されていないと考えている。今のところ、ウクライナが戦争に勝つとは考えていないとウラジミール氏は述べた。

「資金が盗まれなければ、この戦争に勝てたかもしれないが、お金がないので、負けるのは当然だ」とウラジミールさんは言った。ウクライナへの追加支援については「ウクライナが戦争に勝つことにはならない。資金は政府にゆくだけだろう。さらなる破壊があり、より多くの人々が死ぬだろう。(ウクライナの)インフラ全体が破壊される前に、腰を据えて交渉しなければならない」と述べた。

もう一人のハリコフの女性アーニャは、ロシアを支持し、今後6カ月でウクライナ全土を占領できると信じていると述べ、誰がウクライナを支配しようとも自宅にとどまると付け加えた。

アーニャは、ウクライナ政府は「愚か者の集まり」だと言った。「彼らは盗みを働いてきたし、これからも他国からの援助を盗み続けるだろう」といい、兵士たちはもはや戦いたがらず、誰もが疲れていると彼女は付け加えた。

アーニャの息子はウクライナ兵で、昨年12月にバフムート近郊で戦死した。亡くなる前、アーニャは政府から十分な支援を受けられなかったため、彼に必要な物資をよく買ってあげた。衣服や弾薬、さらにはライフル銃まであった。

ウクライナのゼレンスキー大統領は最近、志願兵の数が減少する中、新兵の招集のため、陸軍が27歳から25歳まで徴兵する法案に署名した。最前線で戦っているウクライナの兵士の多くは死傷し、後者の場合、怪我から回復に病院やリハビリテーションセンター、精神科病棟で数週間から数か月を費やさなければならないこともある。一旦治癒すると、休息の間もなく前線に送り返されることが多い。

取材したアルチョムという名の兵士は、戦争が始まって以来、脳震盪を起こした回数は30回に上り、ハリコフの精神科病棟で21日間の治療を受けているところだという。アルチョムは、何ヶ月もの間、前線で軍の衛生兵に負傷の手当てを受け、戦い続けるように言われたと語った。最近、ドネツク州の最前線で、彼は精神病を患い、ハリコフの精神科病棟に運ばれたという。

「長い間、心的外傷後ストレス障害を患っています。もうそれに慣れている」とアルチョムは言い、今、彼の旅団はロシアの進軍を撃退するのに十分な武器を持っていないと付け加えた。彼は、米国の援助がウクライナを助け、自分の旅団の兵士に十分な武器を与えることを望んでいるが、それは大した額にならないだろうと述べた。アルチョムはもうすぐに前線に戻らなければならないが、なんとかいかないですむ方法を見つけようとしていると言った。彼はただ戦争が終わってほしいと思っている。

彼は話しているうちに泣き出し、最前線でモチベーションを保っているのは仲間の兵士だけだと言いました。戦闘に戻らなければならないことについてどう思うかと尋ねられたとき、アルチョムは涙を流しながら「私の目を見てください」と言い、新しい米国の援助は「役に立たない」といった。そして

「戦争はロシアが勝つだろう。私は戻りたくない」と付け加えた。

(了)

【翻訳チェック 田中靖宏】